

# がん化学療法継続に不安を抱える患者への薬学生の関わり

---



信州大学医学部附属病院 薬剤部

上松 祐貴

# 信州大学医学部附属病院の概要

- 診療科数：32診療科
- 病床数：717床
- 薬剤師数：49名（認定実務実習指導薬剤師：6名）
- 薬学部実務実習生の受け入れ状況

	2020	2021	2022
Ⅱ期	3名	4名	4名
Ⅲ期	6名	6名	5名
Ⅳ期	5名	3名	—



# 実務実習スケジュール

## ■ 中央業務

調剤室（内服・外用,注射）

麻薬管理室

医薬品管理室

製剤室（TPN,院内製剤）

通院治療室（化学療法）

試験室（血中濃度・TDM）

医薬品情報管理室

## ■ 病棟など他職種との関わり

病棟実習

チーム医療（カンファレンス・回診）

他部署見学

週	月	日	曜日	午前		午後			実習場所	実習内容
				8:30 ～ 10:00	10:00 ～ 11:30	12:30 ～ 14:00	14:00 ～ 15:30	15:30 ～ 17:00		
				①	②	③	④	⑤		
1	8月	22	月						講義・見学	医療人として、感染症予防
		23	火						調剤室、医薬品管理室 (内服 or 注射)	計数・計量調剤、医薬品管理 疑義照会
		24	水							
		25	木							
		26	金							
2	8月	29	月						製剤室 (院内製剤、TPN調製)	院内製剤の調製、TPN調製
		30	火							
		31	水						病棟	服薬指導等
3	9月	1	木							
		2	金							
		5	月							
		6	火						試験室	血中濃度評価・投与設計
		7	水							
4	9月	8	木	患者サポートセンター		NSTカンファ			カンファレンス参加等	カンファレンスへの参加等
		9	金						チーム医療	チーム医療への参加等
		12	月							
		13	火						医薬品情報室	医薬品情報の収集・提供等
5	9月	14	水							
		15	木	感染制御室ラウンド					カンファレンス参加等	
		16	金							
		19	月							
6	9月	20	火						医療安全管理室	医療安全、インシデント検討
		21	水							
		22	木							
		23	金							
7	9月	26	月	緩和ケアラウンド						
		27	火						他部署見学	他部署の見学
		28	水	治験					臨床研究支援センター	治験
		29	木							
8	10月	30	金							
		3	月	医療安全ラウンド						
		4	火	救急・災害医療						
		5	水	褥瘡と薬						
9	10月	6	木	治験						
		7	金			地域連携				
		10	月							
		11	火	授乳と薬						
10	10月	12	水	妊娠と薬					通院治療室	外来のがん患者への指導
		13	木							
		14	金							
		17	月							
11	11月	18	火	精神科リエゾンチーム						
		19	水							
		20	木							
		21	金							
11	11月	24	月	脳神経外科疾患実習						
		25	火							
		26	水							
		27	木							
11	11月	28	金							
		31	月							
		1	火					予演会	まとめ・報告会資料作成等	まとめ
		2	水					報告会(17:30～)		
11	11月	3	木							
		4	金							

# 当院の病棟実習の概要

- 約**9**週間の病棟実習期間
- **1**病棟に学生**1**名
- **3**クール実施（**3**病棟）
- 学生**1**名に対して**1-2**人指導薬剤師（病棟担当）



目標：1症例に長く関わる

# 症例

---

- 診療科 : 血液内科
  - 患者情報 : 70代、男性
  - 診断名 : びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫 (DLBCL)
  - 治療方針 : R-CHOP療法
-

# 病棟実習では

入院

- 薬歴、処方内容の確認
- 化学療法の説明

治療

- 副作用モニタリング
- 支持療法の提案

退院

- 多職種カンファレンス
- 退院前指導



# 化学療法の説明

- 学生の介入



事前に準備した説明書を用いて、がん化学療法の投与スケジュールや主な副作用に関する情報を患者へ説明した。

- 患者の反応



「治療内容は分かりました。ネットでも調べたんだけど、今回の治療はこの病気によくある治療なんですか？他の治療もありますか？」

「本当はここで治療したいけど、医師から地元の病院で行うって言われて・・・、専門医のいないところで大丈夫かな。」

話を傾聴し、今後の治療方針について医師や看護師に確認することにした

# 今後の治療方針について医師・看護師に確認

- 地元の病院での治療に関して不安を訴えていることを情報共有

医師からは「自宅から遠く（車で1時間半）にある当院より地元の病院で治療を行ったほうが、患者さんの負担も少なく、緊急時のかかりつけとして対応がしやすいのでは」という理由から判断していると説明あり。



これらを踏まえて、どう対応したら患者さんの不安を軽減させ治療を継続できるか学生と指導薬剤師で検討した。



# プロブレム



## # 1. 今回の治療選択に対する不安

「治療内容は分かりました。ネットでも調べたんだけど、今回の治療はこの病気によくある治療なんですか？他の治療もありますか？」

## # 2. 地元の病院での治療継続に対する不安

「本当はここで治療したいけど、医師から地元の病院で行うって言われて・・・、専門医のいないところで大丈夫かな。」

# # 1. 今回の治療選択に対する不安



「治療内容は分かりました。ネットでも調べたんだけど、今回の治療はこの病気によくある治療なんですか？他の治療もありますか？」



- R-CHOP療法は、DLBCLに対して第一選択の標準的な治療方法\*であり、本患者の状態からも適したものである。また、本治療で奏功しない場合でも、次の治療方法が存在する。

\* 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年

# # 1. 今回の治療選択に対する不安

---

「これが通常の治療なんですね。この治療が効かない場合の、次の治療法もあるんですね。良かったです。」



## #2. 地元の病院での治療継続に対する不安



「本当はここで治療したいけど、医師から地元の病院で行うって言われて・・・、専門医のいないところで大丈夫かな。」



- 血液内科の専門医は常駐していないが、同レジメンの使用経験があり、がん薬物療法専門医やがん専門薬剤師等が常駐\*していることから、治療は問題なく実施可能と考えられる。

\* 同院のホームページ上で確認

## #2. 地元の病院での治療継続に対する不安

---

「地元の病院でも、出来ることは分かったけど、ここと同じ様に治療してもらえますかね。ここで行った治療内容とか向こうに伝わりますか？」



## #2. 地元の病院での治療継続に対する不安

- 転院先の薬剤師へ情報提供する内容を学生と検討

- がん化学療法継続に不安を感じている事
- 治療レジメンの内容
- ①コース目に出現した副作用及びその対応方法



これらの情報を、学生自ら、転院先の薬剤師へ電話で伝え、今後のフォローアップを依頼した。



# 退院前指導

- 学生の介入



転院先の薬剤師へ治療内容を情報提供し、当院と同様の治療が可能であることを患者へ説明した。  
併せて、お薬手帳へ情報提供した内容を記載し交付した。



- 患者の反応



「これで、安心して地元で治療できます。ありがとうございました。  
また、よろしくお願いします。」

治療開始時にみられた不安の訴えはなく、  
今後の治療に前向きな姿勢がみられ退院となった。

## まとめ

---

- 本事例は、学生によるがん化学療法の説明や副作用モニタリング等の関りに加え、治療に対して不安を感じている患者に寄り添い患者の不安を軽減することができた事例である。
  - さらに、転院先の薬剤師に情報提供するなど施設間の連携に貢献し、学生自身が施設間連携の重要性について学ぶことができたと考える。
-